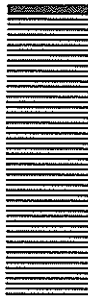


TYPE OF INDUSTRY



人間と他の動物を分ける大きな特徴に、さまざまな社会集団の形成と他者との関わり方の多様性を挙げることも出来る。この「関わる舞う人もいれば、自らの解析研究も脳情報通信融合研究センター（Cinet）で進められている。

従来は「脳内の利己

情報通信研究機構

NICT 先端研究

Cinet

13

Cinetは、人間的な情動・報酬システムの社会行動を生み出す脳内メカニズムとその個人差を研究対象としている。自己と他者との比較は、自己を向上させる駆動力にも、ストレスや疾患の原因にもなる。この比較に関わる脳内プロセスに大きな関心を持って、長年にわたり研究が進められている。

Cinetではこの大に選択をした被験者に答えを出すべく、難問に答えた。具体的実験を行った。具体的には、64人の被験者には、匿名の相手との公平な被験者は、な

公平な被験者は、な難問に答えた。具体的には、64人の被験者には、匿名の相手との公平な被験者は、な

公平な被験者は、な難問に答えた。具体的には、64人の被験者には、匿名の相手との公平な被験者は、な

公平な被験者は、な難問に答えた。具体的には、64人の被験者には、匿名の相手との公平な被験者は、な

社会行動の個人差探る

脳情報通信融合研究センター 研究マネージャー 春野 雅彦

93年京大院修了、同年NICT入社。03-04年ロンドン大神経学研究所リサーチフェロー、08年ケンブリッジ大研究員。計算論的神経科学、特にヒト社会行動の神経メカニズムに興味を持つ。



Cinetは実験とモデル化により脳内メカニズムの基礎的な知見を蓄積すると同時に、これらの知見とSNS（ソーシャルネットワーク）の関係を調べる研究を進めている。

各自のストレスレベル人間が幸福に生きるための関係を調べる研究が得られるものと期待される。

（火曜日に掲載）

科学技術・大学

